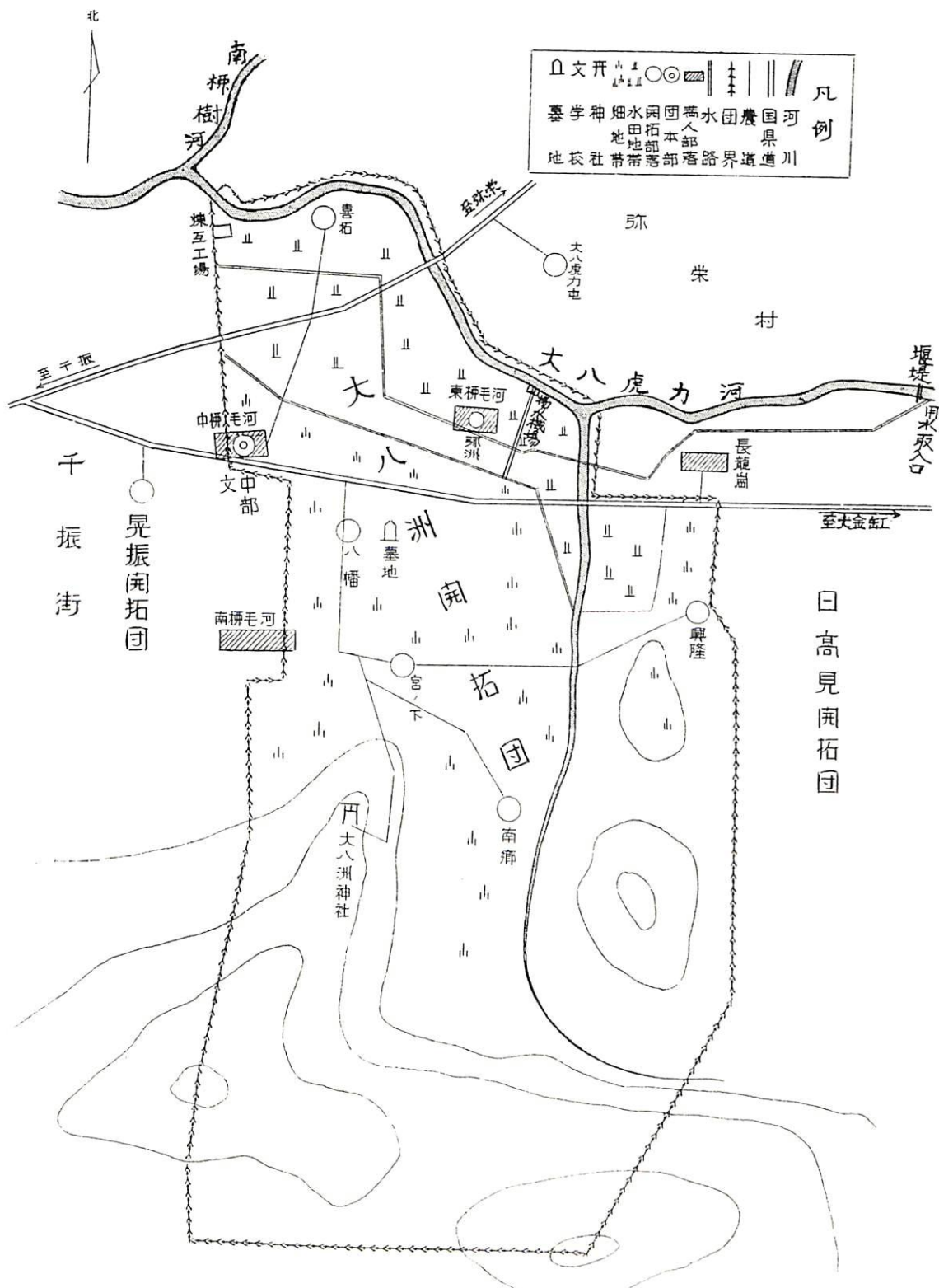


現状である。大八洲はよき指導者をえて、それを中心にこの課題について相当の回答を提供しつつあると考えられる。その結合の強さは、土地なき開拓時代に、経験的にしつかり形成されたものであり、人間理解の上にもまた、「分かれれば倒れる」きびしい環境状勢の中で、裸の農民が生きて行く方法を認識できたからに違いない。

しかし日本内地の農業の中で、佐藤氏のもつような理想の実現を、少くとも支持し育ててゆく客観的条件が余りに乏しいことを知らねばなるまい。建設段階を終え、本格的経営の段階に入るとき、この共同経営はどんな試練の問題にぶつかり、変化してゆくかは、開拓問題としても、深い関心を寄せられるものである。

五、 付 図

大八洲開拓団略図



日高見開拓団

晃振開拓団